

好調続く南房のヤリイカ 年明け以降も期待十分!

ふたご座流星群が見ごろのピークという12月14日の未明、館山道を南下して向かったのは南房洲ノ崎栄ノ浦港の早川丸。好調が続いているヤリイカを狙っての釣行だ。

残念ながら途中で寄ったコンビニの駐車場でも、船宿受付や港でも流れ星には出会えなかったが、今日も釣れますようにと願いをかけて親父船長の28号船で出船した。

「朝イチはスルメも交じるポイントをやからツノは18センチで。なければ11センチでもいいですよ。オモリは150号。場所まで15分ほどですから準備しておいてください」とアナウンスがあり船は速力を上げる。

スルメ狙いからスタート

着いた場所は洲ノ崎沖。ヤリイカやスルメイカの名ポイントとしてよく聞く釣り場だが、洲ノ崎栄ノ浦港から出るとまさに目の前、真正銘の洲ノ崎沖と実感する。

しばしの反応探しの後、「ハイやってー。水深は150メートル。反応は底のほうだね」で釣り開始。いつもはある程度写真を撮ってからの竿を出すのだが、まだ暗く撮影には向かないを言い訳に私も1流し目からオモリを放り投げて参戦した。

船長の見切りは早く「反応消えちゃった。上げてー」で1投目は空振るも、2投目では竿先にズン! と割とハッキリとした乗りが伝わった。

これは胴長30センチ級の良型ヤリイカで18センチのブルーのイカヅノをしっかりと抱いて上がってきた。

続いては着乗り、しかもズンズンと追い乗りもあって良型のスルメを3点掛け。

最近はやリイカ以上に高級イカとなったスルメイカ、これで塩辛と肝焼きにもできる。早くも舌なめずりだ。

周りでも順調に釣られていて、ヤリイカとスルメイカの交じり具合は半々といったところか。見ていると11センチの仕掛けのほうの小ヤリも確実に取れるせいか、数釣的には有利な感じだが、10杯くらいはスルメがほしいと18センチのプラッツノで通すことにする。

とは言ってもスルメ専門に狙うのなら普段はブルーとピンク2色だけの硬派? な仕掛けなのだが、この日はヤリイカも意識してケイムラや淡いブルーを多めに配色した、ちよつと日和った軟派な仕掛けで臨む優柔不断ぶりだ。

しかし日が高くなるにつれスルメイカの上がる率が低くなる。何人かいた18センチ組もどうやら私一人になったようだ。

このころになると乗りもや



▲南房のヤリイカシーズンはこれから本番

れていても10メートルくらい上までは探っていたが、ここからは底で何度か誘って乗らなければ30メートルほど巻き落とし、に変更した。

スルメの5点掛け達成

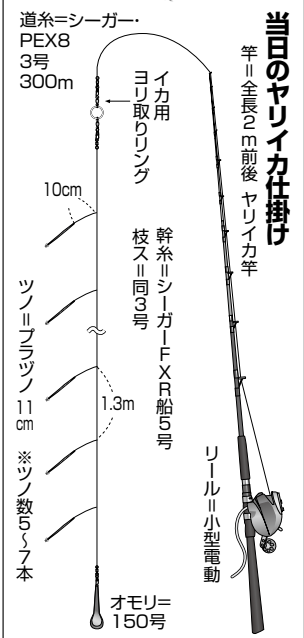
船長のポイントの見切りは相変わらず早く、反応が消えたりだれも乗らなかつたりするとすぐに移動の合図が出る。乗りがないままに何度かシヤクっては巻き落としを続けるのは辛いもの、こういった操船は集中力が途切れず個人的には大好きだ。

Tackle Guide

洲ノ崎沖はスルメイカの交わる率が高い釣り場だ。今回5点掛けがあったように、ヤリイカ用のブランコ仕掛けでも多点掛けはあるので、幹糸は最低5号はほしいところ。ツノ数を増やすなら6号以上が無難だ。



▲ヤリイカ仕掛けにもスルメの多点掛けはある



▼速潮時は合図に遅れないよう投入しよう



▲今後はサイズアップにも期待

10時近くになって船団を離れやや沖目へと移動する。水深はやや深くなり200メートル相変わらず浮いた反応はないようで「底のほう」とのアナウンスがあり釣り再開。そしてここではまた乗りが上向いた。何人か同時に巻くことも多く、「3点掛けだよ」「4杯いたのに1杯バラちゃった」なんて景気のいい話も飛び交う。

ただ上の潮が速く気を付けないとオマツリもする。またこのころには風もやや強くなり波つづきが出てきて、気を付

て巻き上げを開始するが、今までの「11」の巻き上げでは重量に負けてか遅く、徐々にレバーを倒し込んで「14」で以前同様の巻き上げスピードを確保する。

そして200メートルもの長丁場の巻き上げを終え、ヨリ取りリングを船内に入れて仕掛けをたぐり始める。一番上の

ツノから乗って1点、2点……なんとスルメの5点掛けだった。

十分満足なのだが、一点不

満というかアレ? だったのは、仕掛けの真ん中に配置した自作の糸巻きヅノを避けるようにして、その下のツノからまた連なって乗っていたこと。遊び心で「ほかにはないツノを」と若草ボディに紺色の糸を巻いたのだが、どうやらイカの気に召されなかったようだ。

しかし次の投入ではその自作巻きヅノに良型のヤリイカが乗ってきた。後にも先にもそのツノに乗ったのはこの1杯だけだったが、うれしい1杯だった。

その後も安定してイカは乗り続け、「この流しで揚がりますよ」とラストコール。最後は釣って終わりたいもの、と

知得! Tips and Tricks

早川丸の乗船システム

早川丸の釣り座の決め方は、予約した順番に好きな場所が取れる方式。港で船の準備が整うと、順番に名前が呼ばれ船に乗り込むのだが、荷物は船長や手伝いの方が船に積んでくれるので、釣り人は手ぶらで船に乗り込める。まだ暗いうちに出船となるこの時期にも安全安心だし、非力な女性や年配者にもありがたい心配りだ。

▲乗降時は船長やスタッフが手伝ってくれる

▲早川丸は舳船2隻で出船中



▲スルメは良型が多い

や深くなってきて、まして18センチの私のペースはガタ落ちとなる。そして久びさに乗せた1杯はツノより小さそうなチビヤリだったため、私も11センチ7本のブランコ仕掛けに交換。本格的にヤリイカを狙うこととした。

●かすかわ あきら / 洲ノ崎スルメの肝は赤みがかった絶品肝だった。肝ホイ焼きで一杯。残りは味噌漬けと塩辛にして絶賛賛成中〜。

●船宿information

南房洲ノ崎栄ノ浦港

早川丸

☎0470-29-1095 (詳細は巻末の情報欄参照)

▲料金=ヤリイカ乗合一人1万1000円(泳付き)

▲備考=予約乗合、6時出船。別船はカワハギも

早川 勝巳船長